

2022年度 学校自己評価表

学校法人 中央高等学園 中央高等学園専修学校

中長期目標 (学校ビジョン)	校訓である「共生」「自立」「感謝」を基調とし、「温かい人間関係」「高い志と生き抜く力」「自己への挑戦」を大切に社会に貢献出来る人材の育成を目指す。
-------------------	---

今年度の重点目標	1. 個々に応じた基礎学力の向上・資格の取得 2. 規律ある生活態度の育成・徹底 3. 望ましい人間関係の構築 4. キャリア教育の推進と充実・早期の進路決定
----------	--

評価基準
 A: ほぼ達成 (90%程度) B: 概ね達成 (70%程度) C: まだ不十分 (50%程度) D: 方策の見直し (30%以下)

年度当初				評価結果 (10月)			最終評価			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方法	評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
個々に応じた基礎学力の向上・資格取得	○個々に応じた学習意欲の喚起	○単位認定が心配な生徒は、放課後や長期休暇に補習を実施。また、追試課題も自宅ではなく放課後に組み合わせている。 ○試験問題のルビ (ふりがな) 対応や拡大対応など、支援が必要な場合はできる限りの対応をしている。	○学ぶこと、分かることの喜びを知り、意欲的・自立的・計画的な学習展開を図れる。	○単位認定が心配な生徒は、放課後や長期休暇に補習を実施。また、追試課題も自宅ではなく放課後に組み合わせている。 ○試験問題のルビ (ふりがな) 対応や拡大対応など、支援が必要な場合はできる限りの対応をしている。						
	○授業の質の更なる向上	○生徒の習熟度や単位認定状況を職員間で共有することができている。 ○全員ではないが、職員が様々な資格にチャレンジすることができている。	○生徒の情報を共有し、授業の質を向上させる。 ○職員の自己研鑽が日々行われている。	○生徒の習熟度や単位認定状況を職員間で共有することができている。 ○全員ではないが、職員が様々な資格にチャレンジすることができている。						
	○資格取得率の向上	○授業の出席率は良くなったが、検定当日に欠席者が多かった。 ○漢字検定3級以下合格率41%。準2級6名、2級2名合格。 パソコン検定2級以下合格率	○漢字検定3級以下の合格率60%以上、パソコン検定3級以下の合格率が40%以上、かつ各種検定の上位級 (準2級以上) の合格者数を増やす。	○全員受検の検定は、検定日ではなく検定WEEKとして、検定試験を授業に組み込んでいく。 ○年間の検定スケジュールを生徒配布し、見通しを立てさせる。 ○月毎の予定だけでなく、年間の模試予定を掲示し、意識を高めさせる。						
規律ある生活態度の育成・徹底	○学校の規律やルールの遵守、公共の場でのマナー向上	○生徒が学校の規律や公共マナーを理解しようとしている。	○社会で通用する身だしなみと生活習慣を身に付けさせる。	○ルールを画面化することで、生徒・職員・保護者とも視覚的に共有し、毎月の服装検査を継続していく。 ○時間厳守の声掛けを授業やホームルームを通して行い生徒に意識させる。						
	○積極的な挨拶の定着	○毎日玄関先で教員が声かけができています。	○挨拶をする習慣を身につけさせる。	○生徒からも明るく元気のよい挨拶が返せるよう、継続して声かけをしていく。						
	○清掃活動の習慣化、学									
望ましい人間関係の構築	○信頼し合える関係作り	○アンケート回収率: 保護者94%、生徒95%。満足度は保護者94%、生徒82%。 ○「ソフトなタベ」の平均参加者9.75人。参加者は固定化されている。	○保護者・生徒アンケートで満足度90%以上。 ○「ソフトなタベ」の参加者平均10人。	○年2回の生徒・保護者アンケートを継続して実施 (9月・1月: 3年・2月) ○「ソフトなタベ」の参加者を増加させるため、内容を検討する。 ○「ソフトなタベ」は毎月第3水曜日に実施。						
	○クラスでの仲間作り	○3月に2年生企画の球技大会を実施。各学年で一致団結することができた。 ○勉強室終日利用の生徒は0人になった。	○人間関係固定化の枠を外し、教室に入りづらい生徒の教室にいる時間をふやす。	○生徒企画イベントを年間で計画を立てて継続する。 1学期 (6月) 3年生 2学期 (9月) 2年生 3学期 (3月) 1年生						

年度当初					最終評価					
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策				評価	目標の達成状況	次年度引継ぎ事項等
キャリア教育の 充実・早期進路決定	○幅広い視野・職業観の育成	○3年生は93%の生徒が卒業後に進みたい方向が決まっている。	○幅広い選択肢の中から進路目標を見つけさせ、進路実現のため日々努力させる。	○感染症の様子を見ながら、学校見学、出前授業、職業人講話の計画を立てる。 ○より具体的なゴール設定が必要な生徒もいる。オープンキャンパス、職場見学等、具体的に細かな目標設定をしていく。						
	○進路希望と適性に対する自己理解の更なる促進	○卒業生進路決定20/22名(91%)。	○自己理解を促し、理想の自分を見つけさせる。	○卒業生の経験例を伝えたり、履歴書の練習等をさせ、進路決定までの見通しをより具体的に持たせる。						
	○進路実現に向けての具体的・主体的な行動	○年間を通じて全学年で55%の生徒がアルバイトを経験している。	○自らの進路について真剣に考えさせることで、具体的な行動を起こさせる。	○社会経験・自己実現に向けたアルバイトを促す。						
	○ゼミ・ボランティア活動や地	○年度当初に全学年に現在専	○自ら率先してゼミ・ボ	○ゼミ・ボランティア参加の生徒を視覚化						